

婦人子ども



大正四年十一月五日

第十五卷
第十一號



フ
レ
ー
ベ
ル
會

第十五卷第十一號目次

婦人と戦争

深作 安文

發作的に動作する子供

寺田 精一

『トプシイ』

岡田 みつ

幼兒生活に於ける體現

K T 生

文展の「子供」の繪

倉 橋 生

雜 錄

フレーベル追懷錄

本誌定價

一册 郵税共金拾壹錢 六册前金郵税共六拾錢
拾二册同金壹圓貳拾錢 郵券代川一割増

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ
込み下さい。直に送本致します。(振替口座東京一七二六六
番)

本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます

庶務及會計に關する御用務は東京女子高等師範學
校附屬幼稚園内フレーベル會事務所宛

本誌編輯の御用務(寄稿、廣告等)は東京府下代々
木山谷一二四倉橋惣三宛

大正四年十一月一日印刷
大正四年十一月五日發行

東京府豐多摩郡代々幡村大字代々木山谷一二四
編輯兼發行者 倉 橋 惣 三

編輯者 東京市本所區番場町四番地 登

印刷所 東京市本所區番場町四番地

發行所 東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
フレーベル會

幹主子とも仁羽

子之友

婦人之友社が年來の宿志によつて、昨年四月から出して居ります十分教育的なる子供雑誌で御座います。記事も挿畫も子供の喜ぶものばかりです。楽しんで讀む間に、頭腦をよくし感情を高尙にし、善良なる習慣を愛するやうになります。『子供之友』には、一つの非教育的なる挿畫も、一行の不注意なる文章もありません。『子供之友』は、家庭教育の最も有力なる補助機關であります。幼稚園及び小學校時代の御子様方のために、熱心によき讀物を求めて居らるゝ御家庭におすゝめ致します。

定額 一十一年半分 一十一年半分 一十一年半分 一十一年半分 一十一年半分
 冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊
 郵 一圓 一圓 一圓 一圓 一圓
 税 一圓 一圓 一圓 一圓 一圓
 分 一圓 一圓 一圓 一圓 一圓
 十 一圓 一圓 一圓 一圓 一圓
 錢 一圓 一圓 一圓 一圓 一圓
 婦人之友社 東 振 替 一 〇 六 〇 〇 番 谷

顧問 高島平三郎先生

ゴドモ

此の月刊「繪ばなし」は幼い女の子にも男の子にも誠に良いお友達である。さし繪の綺麗な事と片假名にて記事の教育的なるとは讀んで面白く大に爲になる家庭向の雑誌なり
◎子供を愛する家庭にはなくてはならぬ讀物なり

定價一冊金十錢郵税 最寄書店になくば
毎月一回 五厘六册郵税共金五 本社へ御申込あれ
一日發行 十八錢十二册郵税 御注文は振替貯金
共金一圓十錢(前金) ならば尤も便利也

●郵便切手代用一割増●

東京小石川林町五七
振替東京二七九六三

ゴドモ社

婦人 と 戦争

フレイベル會總會に於ける講演

東京文科大學助教授文學士 深 作 安 文

私は皆様の御従事の仕事については全く素人で御座いまして、その方面の話はどうも危くて致しかねるので御座います。それで始めから私の思ふ通りの題で話させて下さるならばと云ふお約束で参りましたのです。弱點を並べますやうですが、今週は少し多忙でありました爲めに、見やうと心懸けて居りました参考書もつひ手をふれる事も出来ずに、今日此處へ罷り出でましたので御座います、行き届きません處は、どうか皆様の御諒察を願ひたいと思ひます。

此題を選びましたのは別に深い理由があるので御座いません、時局の戦争とお話する皆様が御婦人でありませぬ處から二つをつないで見たに過ぎ

ません、まづ順序として女子の特色もしくは長所といふやうなものを申上げたいと思ひます。女子の特色を數へあげますと第一懐妊次に出産、次に育児であります。此三つは女子の特色中の特色で御座います。それから家事家政といふやうな事もまた大なる婦人の長所であらうと思はれます。その外お料理とか裁縫とかいふものも、殆んど女子獨專の範圍と思ふのであります。日本固有の作法小笠原法などの如きも多くは婦人の關係なざるものゝやうに考へられます。給仕でも日本風のはどうも婦人が適任らしいやうです。次に藝術であります、文學の方面では、これまで日本にも西洋にも立派な女流が輩出して、優に其特色長所を發

揮し得らるゝといふ事を證據立てゝ居ります。

音樂にも婦人は長所をもつて居ります。殊に聲樂の方は男子が到底追付く事が出来ないものがあるのださうです、三浦環女史の如き此頃英米に於て非常な名聲を博して居られるやうであります。次に繪畫ですが、之がまた女流に少からぬ關係を有するやうに思はれます。繪畫をよくした婦人は昔から随分あります。また近頃毎年開かれる文展などにも、いつも閨秀畫家の出品を見ます。次に劇ですが、之は東洋に於ても西洋に於ても男子も女子も共に關係して居ります。佛のサラベルなどは大變な人氣で御座います英國ではアービングが有名で日本で、云へば市川團十郎にも當る役者ですが、技術の上から云ふとサラベル女史の方が上である。と云ふ話であります。近來我國でもだん／＼と女優の勢力が盛になつて參りますやうです。次に彫刻ですが之は文學音樂ほどではないやうです。たつた一人江木夫人が之をよくせられるさうです。

が、一人でもあれば彫刻といふものが女子と全然關係のない事はありますまい。殊に彫刻は繊巧な技術ですから、今後女子と密接な關係を有する事になるかも知れません。其次に社會事業ですが、此事業のある種類のもの、即ち慈善事業の如きは畏くも皇室から御盡力になつて居ります。先頃も熊本で天刑病者の看護に盡力して居られるリゼル嬢に皇后陛下より御下賜金があつたと漏れ承つて居ります、英國などでも、皇后陛下や内親王方が慈善事業によほど熱注して居らるゝのださうで御座います。我が光明皇后の如き實に慈悲の化身の如き御方で御座いませう。傳ふる處によれば天刑病者の爲めに浴場を設けて自ら之を洗ひすゝぎ給ふたと云ふ事で御座います。それから近く盛になつた愛國婦人會の主唱者は奥村五百子女史の如き歴とした婦人であります。其他に事務員、銀行會社員の如きも細い仕事は女子が最適して居るやうに聞いて居ります。

次に男子の特色と長所を申し上げて見たいと存じます。男子の長所は即ち女子の短所になるので御座います。第一に政事法律は男子の特専のやうに思はれます。尤も例外がないではありません、我が尼將軍の如き、英のビクトリヤ女王、露のカザリン皇后の如きは立派な女流政事家でありますしかし大體としては、之は男子の舞臺であります。第二に軍事ですが之もまづ男子の特専の事業と申して差支なからうかと思ひます。失禮に當るかも知りませんが、女子が師團長になられるといふやうな事はどうも一寸考へつかないやうです。乃木夫人の如き烈婦でも將軍のやられた旅順攻撃は出来ませぬ。尤も我國の上代に於ては神功皇后の如き多數の軍勢を御統率遊ばされて遠く新羅を御征伐になつて、婦人の爲めに萬丈の氣焔を擧げ給ふためしもあります。此外に我が國の上代には偉らい婦人が大勢あらはれて居ります。天照大神、伊諸冊命、天鈿女命の如き男子も遠く及ばぬは

たらしきをして居られます。是等を以て或は今後女子と軍事と關係が來るやうになるかもしれませぬ。第三に外交ですが、女子の外交家といふのはどうもあまり見受けられないやうに思はれる。第四に學術はやはり男子の領分のやうに思はれます。學術の中複雑な哲學の如きどうも女子には不適當のやうです、科學の方は例外がないではありません。ラジウムを發見したキユーレー夫人の如きモンテツソリー女史の如き其好適例で御座います。今度の新しい學制々度では婦人も大學へ入學をゆるさるやうになるさうですから、此後女流學者の輩出を見るやうになるかも知れませぬが現今の處まづ男子の舞臺であると云つて差支ありません。それから藝術ですが、これは女子がよほどはいり込む事が出来るのですが、なほ男子でなければいけないある方面が御座います。建築彫刻などの種類であります。之は頭腦を多くはたらかせると同時に腕力を要するからであらうと思は

れます。次に宗教について考へますと、之れも大宗教家は凡べて男子のやうであります。釋迦基督マホメット孔子皆男子であります尤も天理教のおみき婆さんの如き例外もありません。次に殖産といふやうな大規模のものになりますと、どうも女はひげを取るやうで御座います、それから醫者ですがこれも男子と肩を並べ得るほどの女醫はあまり見受けないやうで御座います、動物學の解剖などの如きも、女はどうも氣味がわるかつたりして不適當のやうで御座います。次に探險で御座いますがこの邊になりますと、どうも男子のみの仕事のやうに思はれます。

さてかやうに男子と女子と特色の別れるのはどういふわけでありませうか、之は學問の方から十分に説明する事が出來ます。第一生理學的に考へて見ると女子は男子よりも身體が小さい、尤も之も例外はありまして、有髻男子を眼下に見下すといふやうな大女がないではありませんが、筋骨逞

しいといふ詞は普通男子の形容に用ひられるやうです、之は先天的の違ひであつて生後どうする事も出來ないものであります、即ち神の思召でありますから人力の如何とも致方のない點であります細かい點では女子は男子よりも脂肪質が多い妙齡期に肥滿して來るのは此のわけで御座います。此脂肪の多いといふ事は身體を保護する上に非常な便利を與へます、第一病氣に對して抵抗力が多かつ病氣にかゝつても回復が早いわけになります。それですからこんなに肥えては迷惑であるなど、云はずに益御肥滿になつた方がよいと思ひます。女子の身體中最發育のよいのは腹であります。懷妊等の爲め非常に丈夫に出來て居ります。次に乳房ですが之は非常に尊いものであります。たゞ二つの乳房で五人でも十人でも養育する事の出來る貴重な寶であります。人工的に牛乳などで育てたものと比べますと無論母乳で育てたのが發育もよし學校の成績などもよいと云ふ事であります。前

にあげました諸點から女は自分自身の身體を保護する事が男子より強い、一抱あつても柳は柳かなと云つた風にふうわりと風を受け流すやはらかい弾力性は女子が勝つて居るやうです。此身體の構造から考へましても、人間種族の保存といふ事が女子の天職のやうに思はれます。生理上から考へても男子と同じ範圍内で鎬をけづる事は不利なので御座います。心理的に申しますと、感覺の中で觸覺と視覺と聽覺が男子に比して女子は鋭敏です一寸人に出逢つても一目して頭のさきから足のさきまで何を着て何をつけて居たか、わかるのさうです、如何に視覺の鋭敏であるかは想像にあまりある事でありませう。觸覺のあるものは鋭くてかつ正確であります。手と目との聯合運動を要するかるた遊びの如き特に女子の得意とする處で御座います。次に注意ですが、之は男子に比して範圍は狭いやうです、深さはよほど深い處までゆくやうですが、ひろさはどうもあまりひろくないや

うです。従つて思想を構成する材料が貧弱であるといふ事になります。之が學問に於て男子にひけ目を取る所以で御座います。ある一つのものに注意し出すと、それのみに傾倒しつくして、それ以外のものには一切氣がつかないといふやうな事が女子に多い、そして知的作用もよほど劣つて居るやうに思はれます。従つて男子に比べるとよほど非學術的非科學的換言すれば空想的であります。歸納的にゆくよりも感情的にゆくものであります。そして保守的である、新しい道理を自分で發見するなど、云ふ事はまづないやうです。之に反して男子はよほど創造的であつて推理も明瞭であります、發明發見といふやうなものは多く男子が之をよくするのであります。其代りに女子は感情に非常な長所をもつて居ります、感じるのが鋭くて強いので、同情とか慈善とかいふ方面について非常な強みをもつて居ります。かつその感情は固執的なので育兒といふやうな面倒なそして長年月を要

する仕事に最適して居るので御座います。而して此長所は同時にまた短所にもなるので御座います。即ち情のはたらきが鋭くかつ強く、自制力が乏しいので克己とか努力とかいふ事がどうも男子に比べてよほど足りないやうに思はれます。之が政事や軍事に適しない心理的理由にもなりませう。

終りに意志ですが之れもまた男子に比べてひげ目があります、喜怒哀色にあらはれずといふやうな事はどうも女子にむづかしい即ち意志の統制力が女子は男子よりもよほど少いやうに思はれます。

かやうに考へて來ると、どうも活動的の事業には女子は不向きなやうであります。然らば女子の最強の處はどこであるか、女子の強みを發揮する世界はどこであるかといふに、それは申すまでもなく家庭であります。どの點から考へても女子の天地は家庭で御座います。何故に家庭が女子の強みを發揮する好適地であるかと云ふと、それは生理的心理的にさうであると一口に云ふ事が出來ま

す。女子が家庭のはたらき手になるといふ事は天的の約束であつて決して一寸やそつとの思ひつきではありません。近來流行つて居ります非結婚主義や、非出産主義といふやうな新しい考へ方は極めて不自然なものであります、それは無論例外はありませうが普通の女は必ず人の妻となり人の母となるのが天から與へられた義務であらうと思はれます。かつまた之れが國家に對する大切なつとめでありませう。

國家といふものは偶然に出來た團體ではありません。現今の文明状態では人間が生活する上に最も大切な組織なのであります。人間が天から授けた諸能力を發揮してその生活を最有價値ならしむるものは、現今の處やはり國家組織でありませう。此大事な國家組織は女子が家庭にはいるといふ事によつて之を鞏固にせらるゝので御座います。男子の持つて居る特色、長所を發揮せしめる爲めにはどうしても女子の内助といふ事が是非必要なので

あります。立派な戦争をする爲めには立派な後備軍がなくてはなりません。堅固な國家を形作る爲めにはどうしても女は内で男は外で各々の長所を發達するといふ事が大切なやうに思はれます。それでどう考へても家庭生活は最よい意味で女子が女子の特點を發揮するに最適當したものゝやうであります。

そこでお話を一步進めまして、婦人と戦争とはどんな關係があるかと申しますと、これはさまざまの點に於てありませうが、第一は後方勤務であります。後方勤務とはたとへば看護婦のやうな種類のものです。此度の戦争に於ても我が赤十字社から英佛露の三ヶ國へ看護婦を派遣せられて居るやうです。赤十字社と申しましたが、これはナイチンゲールと云ふ婦人が創設したもので御座います。第二は實戦と女子ですがこれの關係のない事はありません。右今東西婦人が戦争をした例は決して少くありません。戦争をしないで橋姫の

如く戦塵の間に壯烈な最後を遂げられたのもあります。静御前の如き悲惨なものもあります。殘忍酷薄を極めた戦場に、優美なをして感情のこまやかな女性が點綴しますと如何にも劇的な美しい光景を呈します。巴、板額の如き武勇に勝れたものもあります。近く此歐洲の亂にもロシアの一婦人が男装して従軍したといふやうな話も見えて居りました。古へは神功皇后の如き武勇絶倫の方もあらせられました。

戦争と婦人との關係を今少し具さに考へて見ますと、後方勤務に婦人がはたらくと云ふ事は如何ばかり戦場の士氣を勵ますかわかりません。日露戦争に行つた人の話を聞いて見ますと、戦場で何が愉快だと云つていろ／＼心づくしの品々の封じられた恤兵品を分配せられる時ほど愉快な事はない。殊にその寄贈者の名前が優しい女性である場合荒びた心が和らげられて無上の慰藉を覺えるものであると云ふ事でありました。

第二の實戰の方ですが之も切迫つまつた場合は必要であらうと思ふ。

しかしまづ普通の場合には女子は家庭に於て後方勤務をしやうといふ心懸けが大切であらうと思はれます。そしてそれはどういふ事かと申しますと家事家政を取る場合に、よく國家の状態を考へて國産品の使用をおろそかにしないやうに、また時局の結果物價がどう變動して居るかをよく自覺して、女子相當の義務をつくす事が最肝心で御座いませう、それからまた家庭教育に於て其天分を盡すといふ事が婦人の最大の務めであらうと思はれます。それで家庭教育に於ては日本の母なる人は其兒女に日本主義を鼓吹する事をつとめてもらひたい、即ち犠牲的精神を吹き込んでおもらひたいのであります。そして時局の關係なども主婦たる人が一通りはのみこんで居て、子女の頭にも入れるやうにしてもらひたいと思ひます。此間大學で時局に關係した會が御座いました時、ある女學

校の校長が「自分の學校の生徒に時局について質問した處が一同まるで風馬牛で、何を訊いても知らないので驚きました。如何にして時局の觀念を與ふべきか御教示を仰ぎたい」といふやうな質問が御座いました。私は母に昔の有様を聞きました。昔は士分の家内は皆其藩の大勢位は心得て居て、その危急存亡の場合の覺悟などは平素から持つて居たものださうです。そして娘の嫁に行く時は必ず之に懷劍を與へて、時機の到來した時に立派に使用せよと云ひさせたものださうです。

昔から偉らい人々の傳記などを讀んで見るとどうも賢母に教育せられたものが多いやうです、母の感化ほど其子女に大きな影響を與ふるものはありません。母は第一其子を生んだものであります。自分の身體からだから出した子供でありますから、其愛情の濃やかさは到底他に比較するものではありません。此濃やかな愛情をもつて教へ育むのであるから其感化の大なるは自然の勢でありませう。婦

人と戦争のお話の終りに臨みまして私の曾つて實見致しましたお話を致して見たいと思ひます。日露戦争の當時でした。私は弟の出征を送つて品川の停車場に参りました。汽車の窓の方によつて弟と話をして居りました時、見るともなく見ると私の直ぐ側に年頃三十歳位の婦人が居りました。服装などは職工の家内位の處に見えました。頭は櫛巻といふ結び方をして、背中に三四歳位の子供を負ぶつて居りました。夫らしい出征軍人と何か語り合つて居りましたが、いざ汽車が出やうとする時、其婦人が夫に暇乞をした挨拶を私は今に忘れる事が出来ません。あちらへ行つたら功名をして

發作的に動作する子供

歸つておくれね。子供の世話などは私がするから心配しないでね。」と云ひました。職工風情の細君として其夫の出征を送るにこれほどの詞を以てしやうとは私は殆んど思ひかけませんでした。「功名して歸つておくれ」「子供の世話は私がするから」軍人の妻として之れ以上夫の門出を送る言葉はありませぬ。私は誠に心強く感じました。此詞を以て送られた夫が戦場で卑怯なふるまひは出来なだらうと思ひましたから。それで十年後の今日婦人と戦争についてお話を致しますについてかの殊勝な婦人の態度を新たに思ひ起すので御座います。(文責記者)

文 學 寺 田 精 一

こゝで發作的といふのは、連続的に一貫して居

るといふのでなく、時々或時間を隔て、普通と異つた状態が起るといふ意味である、然し其期間

は大凡一定して居ることもあるが、多くは一定しなくて何か刺戟に接した時に起るのである。又動作といふのは極廣い意味でいふので、普通に用ゐられて居るやうに、何か我事をしやうとして身體を動かす場合は勿論、單に或感情を表現するに過ぎないやうな場合をも、含めて置きたいのである。

幼兒の上に述べたやうな意味の動作は、成人した吾々の眼から見れば、誠に統一のない、調子の整はないものである、けれども幼兒には幼兒らしい色々な動作が、大凡の形を具へて現はれて居るその漠然と輪廓をなして居る動作が、或は自分自らの經驗から、或は他人の模倣から、或は又教育者の助に依つて、次第に普通の人としての動作が、出來上がつて行くのである。而して此の漠然とした動作の輪廓は、個人個人の天性に因つて色々な相違があつて決して一様でなく、又それが普通の人としての動作に出來上がる有様にも、種々異つたところがある。然しながら或種の幼兒に

なると、その動作が普通の現はれ方ではなくて、或時間を隔て、時々特殊な現はれ方をする事がある、これが吾人の問題として居る發作的の動作である。

二

今これを解りよくいへば、幼兒の動作に、あることをいふので、それが稀に起るのでなく、其の時其の時の精神や身體の状態から、若しくは何等かの外部から得られた刺戟から、時々起るのである。其の最も著しく現はるゝのは、喜怒哀樂の表情の場合で、例へば普通には左程に喜ばないことも、或時には甚だしく喜び、又普通には全く意に介しないやうなことも或時には烈しく憤怒の情を起すといふが如きはそれである。かゝる傾向は、幼兒の心身の状態に於ては、或程度まで認められ勝ちのことであるが、その程度の著しく懸け離れて極端なものは、決して普通の心身を有する幼兒とはいはれない。俗に癩の強い子だとい

ふて、不途したことで氣分を害ねると、容易にそれを静めることが出来ないで、身體は反り、手を振り、足を踏んで暴ばれ、甚だしきは顔の筋肉が引き釣つたやうになり、聲が出なくなり、仰向に倒れて、丁度痙攣を起したやうになるのである。

これは極めて著しい場合であるが、かゝる種類の動作は、何時でも起るといふのでなく、時々起るのが常である。或は又氣分が、普通に外部から見ては、何等の理由がないと思はれる時にも、變化し易い幼兒がある。これは上述の場合とは多少趣を異にして感情が動搖し易いのであるが、その起り方の頻繁であることが多い。尤も時には時々起つて、其の他の時には普通と少しも變らないやうな感情の状態を保つものもある。何れにせよ感情の表はれ方が、多少常軌を逸して居る場合である。

次に狭い意味の動作、即ち幼兒の遊戯や日常の行動に於て、上述のやうな發作的の變化のある場

合がある。例へば或時に非常に興味を持つて遊んだことも、他の時には更に何等の注意を惹かない然るに其の後には又以前のやうに著しい興味を持つといふやうな類はそれである。かゝる傾向は成人の吾々にもあることで、仕事にむらのある人といふのは、此の種の性質の人である。或は上のやうに仕事の種類をいふのでなくて、或時には如何なることに臨んでも極めて熱心に行ふけれども、他の時には常には好みそふなことであつても、更にそれに手出しをせず居るやうなこともある。表情の場合と同じやうに、この狭い意味の動作のむらのあることも、幼兒には比較的に見られ勝ちのものであるが、今述べんとするのは、其の程度の著しい場合で、一般の幼兒と明に區別されるやうなのをいふのである。

三

いふまでもなく幼兒の精神状態は、あらゆる刺激が新しく相當に強く感ぜられるから、刹那

の事物に注意を惹かされて、精神の活動がそれからそれへと轉じて行き易い、其の結果一つの纏まつた仕事や、落付いた感情の表はれ方の出来難いのは、寧ろ自然の勢である。此の自然の勢を程度以上に越えて、殊に發作的に著しく現はれ来るやうな種類の幼兒は、日常の教育上大に注意を要するのである。

先づ上述したやうな發作的な動作をする幼兒があつたならば、其の幼兒の遺傳關係を究めるのが大切である。何となれば此の種の幼兒は、偶然に生じたのではなくて、其の多くは悪い遺傳的素質を有して居るからである。此の悪い遺傳的素質といふのは、多くは腦神經病に關係を有するもので主に直系たる兩親のヒステリー、癲癇、酒精中毒梅毒等の影響から得られたもので、時には傍系たる近親者の腦神經病に關係して居ることもある。

かゝる不幸な幼兒には精神上に色々な異常のある外に、身體上に種々な徴候のあることがある。

例へば體質が生來纖弱であつて發育が良くなかつたり、時々痙攣があつたり、些細な病氣や刺戟にも強い影響を受けたり、或は生れながらに不具や畸形を有して居ることも少くない。それから精神上で普通に見られるものは、感動性が強く、夢に驚かされ又寐言をいふこと多く、又時々幻を見るやうな状態になつたり、何の目的もなく歩き回つたり、特別な變つた癖を有することなどが少くない、所謂變り者と見らるゝことが多い。癖の中には瓦を嚙つたり、炭を食べたり、砂を口にしたり、或は昆蟲類や爬蟲類を好んで食することなどがある。これ等の癖のあるものは、俗に蟲持ちとか癪性だとかいはれて居るが、爪を嚙んだり、些細なことを氣にする一種の潔癖なども、亦此の中に包含せしむべきものである。

かの如く、發作的に動作する幼兒は、悪い遺傳的素質を有して居るものが大多數であるから、其の兩親や近親の心身の状態を觀察して、果して遺

傳的のものであるかどうかを定めねばならない。

何となればかゝる性質の幼児は、時には熱病、腦膜炎、外傷等の關係から、何等の遺傳的關係がなく、起ることがあるからである。のみならず幼児の周圍にある人々並に事物の状態が、幼児を刺戟すること餘りに甚だしい爲めに、一時的にかゝる變態を呈するに至つたものも亦あるからである

四

然らばかゝる異常兒に對しては、如何なる處遇をなしてよいか。固より醫師の精密な診斷を受ける必要のあるのは明なことであるが、教育者の立場としては、先づ特別な原因から來て居る一時的のもの、遺傳的素因から來て居る比較的全治し難いものを見分けることが肝要であつて、これは幼児の日常の廣い意味の動作を注意深く觀察する外途がない。

若し教育者に於て、自分の手に掛けて居る幼児の中に、著しい發作的な動作をするものがあつた

ならば、其の原因の何たるを問はず、先づその幼児の周圍の人物と事物との觀察をして若しその悪い傾向を助長するやうなものがあつたならば、これを取除くことに努めねばならない。尤も此の悪い傾向を助長せしむるものは色々あるが、強い複雑な刺戟、營養状態の不良、住居其の他の不衛生状態疾病關係等が其の主なるものである。又幼稚園や學校に居るものであれば、學科の過重なりや否や、賞罰、遊戯の仕方、他の幼児との關係等を充分に懇切に注意して、出来る丈け其の精神を刺戟せしめないやうに努める必要がある。又家庭に於ては空氣のよい地への轉居、食物の撰擇、衣服寢具、周圍の靜肅清潔並に適度の運動、疾病、睡眠等に對する注意の肝要なのはいふまでもなく賞罰、交友、讀物、見物、談話等の注意も決して忽にしてはならない。

かくて出来る丈け、精神を安靜に保たしめ適度なる刺戟に接せしめ、感情の動搖を避けしむるや

う努めねばならない。而して此の種の幼児に就いて特に注意して置くべきは、思春期の頃に至つてこれが著しく昂進して、遂には全く救ふべからざる精神の變態者となることが往々ある一事である。殊にかゝる傾向は、直系たる祖父母及び兩親腦神經病酒精中毒、梅毒等があつて、其の爲めに上述したやうな發作的な變態な動作をして居つたもの

『トブシイ』(二)

文學に現はれたる子供(三十五)

此の白々しい虚言にオフヒリヤは憤然として、トブシイを掴んで烈しく揺ぶつた。「そんな虚言を二度と御言ひでない。」と揺ぶる拍子に今一方の袖から手袋が落ちた。

「さあ如何だ！これでも、リボンを盗みはしない

に、最も多く見られるのである。従て幼児期や少年期が忠實に觀察されてなかつた時には、恰も思春期になつて突發的に、且不治なる程度に於て、發病したやうに觀られることが少くない。これをも以ても幼児期に於ける此の種の傾向の觀察並に適當なる處遇は、最も肝要なことである。(終)

岡田みつ

と言ふのかい。」とオフヒリヤは言つた。

トブシイは手袋の事は白狀したが、リボンの方はやはり強情を張つて盗みはせぬと言つた。

「では、トブシイもし御前がリボンと手袋の事を皆正直に話して終へば、今日は打擲しないで置い

てやるが……」

と言はれて、トブシイは、歎き悔いる風で、リボンと手袋の白状をした。

「では訊くがね、御前此家へ来てから他の品も取つたのだらう、昨日一日勝手な事をさせて置いたから。……もし何か盗んだのなら話しておしまひ、打擲ぶちたないから。」

「あのう、イバ様（此家の少令嬢）が首に巻いていらつしやる紅い物を取つたんです。」

「おれを！ まあ！ 呆れた子だね、……その他には。」

「ロザ（女中の名）の耳飾り……あの紅いのを。」

「さ、今往つて兩品とも持つて御出で。」

「あのう、持つて來られないよ。燃えてしまったもの。」

「燃えてしまった！ 何といふ虚言を吐くのだ。

往つて持つて御出で、さもないと打擲ぶちつよ。」

トブシイは大聲に泣き喚わめいて、持つて來る事は出來ぬと言ひ張つた。

「燃えてしまつたんだ……しまつたんだ。」

「何だつて燃してしまつたのさ。」

「已おとは悪人だから。何しろ、已は大變悪人なんだ……如何も仕方がないんだ。」

此時イバが何氣なくその室へ入つて來たが、問題の珊瑚の首飾りをちやんと着けて居たので、オフヒリヤが、

「あれ、イバさん、その首飾りを何處から持つて來ました？」と尋ねた。

「持つて來た？ 私、今朝からこゝに着けてゐるのよ。」

「昨日も着けて居ましたか。」

「え、而して可笑しいでせう、昨夜もずつと着けて居たの……寝る時外すのを忘れてね。」

オフヒリヤは不思議に感じて居ると、またロザが出來上つた洗濯物の籠を持つて入つて來て、其耳には珊瑚の耳飾りが搖ゆいで居たので、オフヒリヤは、

「こんな子ッてありはしない！如何したら良いのでせう。」と投げるやうに言つて「トブシイ、何だつてあれを取つたなど、言つたのさ。」

「でも御前様が白状しろつて言ふから……而して已も白状する事が他に無かつたんだもの。」とトブシイは答へた。

「だつて御前、取りもしない物を白状しろと言ふものがね……そんな事をすれば、矢張、虚言になるではないか。」

「そうかね。」とトブシイは平氣で不思議さうな顔をした。ロザはトブシイを憎らしさうに見て、「此奴には眞實まことなんといふものは皆目かいく無いんだ。

私が、主人なら血が出る程、打つてやるけれど……それ程な目に遇はせるけれど……」

イバは窘めるやうに、

「そんな事を言ふものでは無い。そんな事聴くもいやだ。」と言つた。

「まあ、御嬢様は御優しいので、黒奴くろんぼの待遇あしらいかた法な

にか御解りになりませんが、どうしたつて彼奴等はひどく答つより他に途は無いので御座います。」

「ロザ、もう御止し。もうそんな事は言はずに置いて御くれ。」と言ふイバの眼は鋭く光つて顔の色も紅が汐して居た。ロザは其見幕に懼れて黙つてしまつた。オフヒリヤが。トブシイの悪業を敷衍して話して居る間、イバは困つたやうな氣の毒さうな風をして居たが、臆て可愛らしく、

「トブシイや、何故物を盗むの。こゝの家で御前これから世話になるのだからね、……欲しいものがあるなら私のを上げて宜いから、盗むんではないよ。」と言つた。

之はトブシイが生れて初めて耳にした親切の言葉であつた。その優しい調子と態度が、妙にトブシイの荒あびた心に響いて、涙かと思はれる一滴がその丸いギラ／＼眼に一寸光つたが、すぐ後は、例のいやな笑ひ顔になつた。暴言より聞いた事の

ないトブシイには、親切の言などといふものが世にあると思へないので、今のイバの言葉も、意味の解らぬ可笑しな事に考へて少しも信じなかつたのである。

此トブシイを如何したら宜いか、とオフヒリヤは頭を悩ました。普通の子供を育てる方法は、トブシイには適せないで、時間を取つて徐ろに考へやうと思つた。オフヒリヤはセント・クレアに。

「あの子を答たすには、始末が着きさうもないのですかね。」

「氣の済むまで答つたら宜いでせう。全權を委ねますから。」

「子供はどうも答たないといけませんよ。答たないで育てるなんといふ事は聞いた事がない。」

「ですから好きなやうになさい。たゞ一つ御注意申す事がある、それは此子は火棒ひかきで打たれたり十能でも火箸でも手當り次第の物で叩き仆され

て來たのですから、そんな事には馴れて居るのですよ。ですから、あなたの打擲が利目きめがあるやうにするには、餘程ひどく力を入れなくては。」

「それなら如何したら宜いでせう。」

「難むづかしい問題になつて來た。立派な答が出來るといふのですが……鞭がなくては御ましていかれない人間は如何したらよからう。其鞭も効を奏さないとなつたら、さあ如何しやうといふのですか此地方では珍らしくない問題なのです。」

「私も如何してよいか分らない。こんな子は見た事がありません。併し、まあ辛抱して出來るだけ世話をしてみませう。」

と言つて、オフヒリヤは熱心に根氣よくトブシイの面倒を見た。定まつた仕事を定まつた時間だけさせる事にして、読み方と縫ひ方とを仕込んだ。

讀方は記憶がよくて文字を瞬く間に覚え、容易な本を直きに讀み得るやうになつた。針仕事の方は

少し骨が折れた。何せよ、トブシイは猿のやうに

チヨコ／＼動きまはる落付きのない子なので、縫物に閉ぢ込められるのが一通りならぬ苦痛であつた。それで針を折つて内所で窓から捨てたり、壁の隙間へ落したり、糸を切る、絡こらかせる、汚す、時には目を盗んで絲巻ぐるみ捨てる事もあつた。その舉動が、専門の手品師のやうに敏捷であるし、顔色を動かすことが極めて巧みなので、オフレリヤもトブシイの故意にする所業とは思ひながら、その場を見届ける事が出来ないのである。

トブシイは、此家の評判者になつた。人真似、戯おど謔顔、あらゆる可笑しい事をするのが上手で、踊る、轉ぶ、攀る、唱ふ、口笛吹く、物音を真似る……かやうの業には無盡藏の技倆を持つて居た。

此子の暇の折は、家内中の小黑奴がその周圍に集まつて、皆口を開け放して、その所作に眺め入るのであつた。その中にはイバまでも入るので、オフレリヤが心を痛めてセント・クレーヤに忠告す

ると。

「あゝ棄て、お置きなさい。却てイバの利益たになるでせう。」

「あんな悪い子供が……イバにどんな悪い事を教へるかも知れないではありませんか。」

「大丈夫。他の子供にはそんな事もあるかも知れませんが、イバなら大丈夫、悪い事は蓮の葉から露が轉ろげ落ちるやうにあの子には染み込む心配なし。」

「さう安心してゐて宜いのですか。私の子だつたら、トブシイなんかと遊ばせませんよ。」

「あなたの子はあなたの勝手ですが、私の子は遊んで差支ないのです。イバが悪くなるなら疾くの昔悪くなつて居まゝ。」

トブシイは始のうちは女中達に嫌はれ輕視さげすまれたが、暫くすると皆その態度を改めなくなつてはならなくなつた。トブシイに無禮を加へたものは、必然きつと、何か困るやうな目に遇ふと定つて居たので。

耳飾り其他大切な飾り品が紛失するとか、着物が全く着られぬやうになつてしまふとか、思ひもかけず熱湯の桶の中へ轉げ込むとか、盛装して出る途端に汚水を二階から注がれるとかの災難が起る度にいくら穿鑿しても悪戯者の知れた例がなかつたトブシイが呼び出されて取調らべられる事も一度や二度では無いのであるがいつも罪無ささうに澄し返つて後暗い風を少しもしなかつた。家内中誰一人當の犯人を知らぬ者は無いのであるが、微塵も證據がないので、オフヒリヤも手を下しかねて其儘にしてあつた。而して、またその悪行が甘く時機を見計らつて行はれるので、例へばロザやジェーンなどの仲働きに對しては、二人が奥さんの御機嫌を損じて居る時にやられるので、二人とも訴へて行く處が無いのであつた。それで家内中トブシイには關涉せぬが得策であると悟つて、全く放棄してあつた。

トブシイはなんでも手業には敏捷で活潑で、教

へられる事を驚くほど速に覺えた。二三度教はつただけで、オフヒリヤの寢臺を批難のしやうも無い程、立派に整頓するやうになつた。あれ程巧い臥床の上被を伸ばし、あれほど宜い工合に枕を置きあれほど上手に掃いたり拭いたりする者は無いと思はれたが、それはトブシイが氣の向いた時だけで……しかもその氣の向く事は終始ある譯ではなかつた。オフヒリヤが三四日も根よく監督をして、もう手放しでさせても宜かろうと、自分の用事に取掛かると、トブシイは一時間でも二時間でも、仕たい放題の亂ちき騒ぎを必然した。臥床を片付ける代りに、枕の袋を外して自分の頭を枕に打付けて見たり、寢臺の柱に攀ち登つて頂邊から頭を下にぶら下けて見たり、敷布や上被を室中に散亂したり、長枕にオフヒリヤの寢衣を着けて唱つたり口笛を吹いたりしながら種々の所作を鏡の前でしたりするのであつた。

ある時、オフヒリヤが如何した事か、抽出しに鍵

を差込んだまゝにして置いたので、トプシイはオ
フヒリヤの大切な赤い縮緬の肩掛を持ち出して、
頭巾のやうに頭に巻き付けて大得意で鏡の前で演
技をしてゐる處を見付かつた。オフヒリヤはもう
愛想を盡かして、

「トプシイ、一體どうしてそうなのだよ。」と言ふ
と

「知らないや。己は心が悪いからなんだろうよ。」

「如何な目に逢はせたらいいか分らない。」

「あのう、御前様己を答たなければ駄目だ。以前
の御主人は始終答つたよ。答たれなくちや働か
ないやうになつてしまつんだ。」

「御前を答ちたくは無いが……しやうとさへ思へ
ば、御前何でもよくするくせに、何故爲ないのだ
らうね」

「あのう、答たれつけて居るから。答たれるのが
効果があるんだろう。」

それで、オフヒリヤがいよゝ／＼答つと、トプシイ
は泣いたり叫喚いたり、詫びたり、呻吟したりし

て騒ぐと定まつてゐたが、三十分も経つと、露臺
の突き出た處へ棲つて、大勢黒奴の子供を聚めて、
オフヒリヤニ打たれた話を馬鹿にしきつた調子で
語りきかせるのであつた。

「オフヒリ様の打ち方なんか……蛟一疋あれでは
殺せはしない。以前の御主人は眞のやり方を知
つて居たよ。……あゝいふ風にしなくちや。」

トプシイは自分の悪業を偉大い事柄とでも思ふら
しく、大袈裟に吹聴するのが常で、小供を相手に
「おい、御前達、知つて居るかい。皆罪があるン
だよ。誰でも彼でも。白人も罪があるンだとオ
フヒリヤ様が仰つたが、黒奴の方がもつと罪が
多いンだと思ふな。……だがその中でも、己に叶
ふものはあるまい。己なんかも悪人で／＼誰
も手の着けやうが無い位なんだ。以前の御内儀
さんだつて年中己に怒り通しだつたけ。必然已
や、世界中で一等悪い人間かも知れない。」

と言ひながら、一つ宙返りをして今一段高い處へ
登つて、得意に四方を見渡すのであつた。(完)

幼兒生活に於ける體現

K T 生

四歳から七歳位までの兒童の生活には體現インプレッションが行はれること頻りである、これは兒童が直接に行ふこともあるし又玩具に種々の役を振り當て、行ふこともある、而してこの時期の兒童を理解するにはこのお芝居の意義を理解するより他に手段はないのである。

この時期の劇的衝動は觀覽者を豫想しない、この時期及びこの時期以前の特色は意識の缺乏といふ點にある。成人者がこの時期の子供を理解することの尠いのは詰り彼等がこの時期を半無意識的に過し來つて當時の記憶を止むることが尠いからである。

この時期の衝動は扮装者の心内に起りつゝあるものを他に傳へんとするのではない、否寧ろそれ

とは反對に兒童は他人他物の心内にあるべしと想像したもの又は己が心内におぼるげに過ぎつゝあるものを明かに知らんと欲して斯く行ふのである。兒童の遊戯に於ける劇的衝動は彼等の世界を理解せんとする衝動に他ならないのである、好奇キュリオシティの衝動が早くも顯れて形を取つて居るのがこの劇的衝動である、而して兒童の心内に第一に構成される世界は他人他物の心から成立つのである。

生活と生活との間の引力は兒童の注意を惹くものを確定する上に於て大なる勢力を持つて居る、兒童は靜かに固定して居るものより動いて居るものを好む、兒童に取つては生きて居るものが當り前なのである、生きて居るものを中心として兒童の世界は構成せられるのである、兒童に取つては

すべてのものが生きて居るのである（必ずしもさうでないといふことが確證されるまでは）。それ故風、浪、蒸汽機關、犬、猫等すべてのものに對して兒童の共感的理解は皆同じやうに動いて行くのである。それ故又すべてのものに就て興味とするところはその生活である、それは内側は甚麼風になつて居るのだらう、それは一人で居ると何うなるだらう、何時お家へ歸るのだらう、若し自分がそのものだつたら甚麼氣がするだらうなぞといふことを知るのが兒童の大なる要求なのである。

この劇的、萬象有魂論的時期の好奇の對象となるものは全體の世界であり個人の世界である、輪廓でなくて本體、細部でなくて總括的意義——實質、その事物の歌——が要求せられるのである、末端や異同に興味が向いて行くのはずつと後の時期に於ていある。這麼風に知るといふことは一種の信仰の行爲である。想像するのである、現實を斥けるのである、それは又共感の行爲でもある、

兒童はこれによつてその友である他の兒童や鳥や石や草や小川や家具やを理解するのである。

兒童が物事を研究するには體現インパットネーションに依るのである、彼が知らんと欲するものに彼自身なつてみるのである、而してそれが如何に感ずるかを知るのである。この時期の兒童の本能は全體を掴むこと直覺によつて直ちにその研究の對象の核心に飛び込み而してそれを基として動くことである。兒童は畢竟一木一草に煩はされずに森全體を見得るのである。

兒童が斯く活潑に彼の經驗を體現インパットネーションすること及び彼の世界的内的性質の直覺をまぎ／＼と現し出すことの必要は彼の想像力が未だ微弱にして獨立して居ないとふ事實に依るのである。兒童は或る物に具體的の形を與へない内はその精神的の形を十分に把握することが出来ないのである。

兒童の體現インパットネーションの衝動は好奇キュリオシティの本能の性質を帯びて居る、後に現れ来るべき探究的、調査的、

分類的本能に於けるが如く、^{インパルシブネーション}體現の衝動に於ても、その世界を支配し兼ねて之をしつかりと握つてゐて彼の心と用とに一致させやうとする無意識的欲望が存するのである。

それから又體現の衝動は部分的には屢々言はるゝ所の模倣的本能の一相でもあるけれどもそれは特殊の意味に於ての模倣である。外部行爲の模倣ではなく内部の精神を模倣し若しくは所有するといふことが兒童の望む所なのである。事實彼はすべての行爲を模倣する——馬の如く跳ねもすれば、猫のやうに這ひもする、犬のやうにワンワンと吠えもする、而してその興味は部分的には斯く行ふことそれ自身に存することは事實である——これは屹度面白いに違ひないのである、けれどもそれは決して單なる模倣のみではないのである。「お早う」も「お竹さん」も安樂椅子の軋む音も一様にたいへん所謂鸚鵡返しに眞似して行く鸚鵡の模倣とは大いにその「趣き」を異にして居るのであ

る。彼を惹付けるものは單なる行爲ではなくて生活の乗物としての行爲である。

個性の核心を知るためにはその行爲を行うてみる事が重要な方法である。そのものになる最善の方法は——そのものが内部から何う感じて居るかを知るには——そのものゝ性格と職分とを自ら行うてみる事である。兒童が牛をモーモーといひ、犬をワンワンといふやうに動詞を用ゐて居ること——この原理の洞察性を語つて居るものではあるまいか、斯くて兒童はその獨創になる多くの行爲を現すのである。彼の全體の演技は斯くして構成さるゝのである。

畫家がモデルをそのまゝに寫さず、彼の心内の形——モデルはこの形の助けとなるだけである——によつて製作をするやうに兒童は決して單に眼に見える動作を再現するのみでなく兒童がそれらの内に感得した性格を現す動作を再現するのである。

形よりも心を貴ぶがために衣裳には殆んど興味が維がれない、論ずる所は着物にあらすして動作にある。

勿論外觀を似せるといふことがインプリント・アクション體現の内部の意義を高める場合にはそれが體現の助けとなるといふことは無論のことである、その場合に於て旗や軍帽を被ることは決して無用ではないといふことが認めらるゝのである。

けれども普通強大なる想像力は單に眼に訴ふるのみなるすべてのものを蔑視するのである。

玩具——遊もてあそびに都合のいゝ大きさと形を備へたものは必要である、けれどもこれはそれをもつて遊び、又はそれに就て想像を加へることの出来るものであつて、それ自身に何事をか爲し得るやうなものであつてはいけない、これが重要な點である。

この時期の玩具は主として想像を懸けるべき掛釘であればよいのである。長方形の木片は牛にも

なれば安樂椅子にもなり、又汽車にもなつて常にその興行者インテリヤリを満足せしめ得るのである、故に寫實に過ぎれば却つて不便を來たすのである、牛なら牛といふ形を明かに備へて居るものを汽車と思ふには餘程の努力が必要となつて來るからである。

ポルカを踊つたり、「君が代」を歌つたりする人形はクリスマス朝十五分間位は兒童に非常に可愛がられる、併しこの場合に於ける兒童の受動的なる觀賞の興味が失せると同時にポロ籃の中へ投げ込まれるか解剖に附せられるかして了ふのである。

寸分の差異なき類似物はあまり重要でないばかりでなく、屢々損傷的である場合が多い、併し手頃の大きさと形とを備へたものは何でも兒童の玩具となり得るのである。

この時期に於て、毎日體現の練習を行うたならば體現の力を十分に養成することが出来るであらう。

インパッション
體 現

の衝動は人々をあるがまゝに觀察する共感的洞察力と他人の眼を以て見、他人の神經を以て感ずる直覺的共感とを發達せしめる。觀察力は假説を證明し又は排斥することが出来る、しかし想像力が無い時はその排斥すべき假説さへも存在しないのである。原因を想像すること、假説を設けること、些かでも豫知し得ることは全く想像力の領域に屬するのである。而して想像の眞は洞察力に依るのである、自身その想像する所のものとなつてそれが如何に働くかを感じる力に依るのである、而してこの想像力は劇的の遊戯を行ふことによつて成長して行くのである。

インパッション
體 現
兒童はその體 現に於て、意識的に研究を行つて居るのではない、彼の衝動はたゞ自分の氣に入つたものとならんとすることに外ならないである。

或物になるといふことも動作するといふことも知るといふこともこの時期に於ては未だ判然と分

たれてはゐないのである。兒童のこの状態は丁度夢の中に現れる人の状態に似て居る、夢の中の人とは或る性格を面白いと思ふと同時に自分がその性格となつて了ふのである。

或物を知ることと或物になることとはこの時期の兒童にとつては同じことではあるがその間に多少の差異がないでもない。或る體 現に於ては好^{キユリオシテイ} 奇の要素が於^{より}多分に存し、或る體現に於てはそのものたらんとする要求が於多分に存するのである、兒童が馬や四輪馬車になりたがつて居るのは高々半日の間位である、然るに自分の好む英雄や何かには數週間も續けてなつてゐたがるものである、兒童はその間ナポレオンならナポレオンのつもりで居る、而してナポレオン君と呼び掛けられ、ば至極恐悦である。フレーベルの騎士の遊びはこの點に關して流石に達識を示して居ると言はなければならぬ。

何はしかれ兒童が何處に居る時でも、幼稚園に

於ても家庭に於ても、又誰が兒童の世話をして居る時でも、インハイフンネーション體現といふことがこの時期の兒童の

成長に缺くべからざるものなることを忘れてはならぬ。(Joseph Lee: Play in Education に據る)

文展の『子供』の繪

倉 橋 惣 三

一昨年の秋、ふと斯ういふことを始めてから、秋毎に美術展覽會に、子供を題材とした繪及び彫刻を拾ひ出して、之れに勝手な妄評を加へることが、私の呑氣極まる一つの恒例となりました。但し私自身にとつては、必ずしも呑氣一方のことではありません。一體『子供』を如何に取扱ふかといふことは、今日の藝術で別段特殊問題として研究せられる程のことにはなつて居ません。山水あり、靜物あり、動物あり、人物あり、また肖像畫美人畫の名のある中に、子供畫といふものが敢て特別な位置を占めては居ません。私達には之れが

甚だ物足りないのです。私達の考へからいへば、『子供』は其の形式に於ても内容に於ても、頗る豊富なる藝術的主題となるものです。換言すれば専門的な『子供』畫家が、立派な藝術上の一分野を作る筈のものなのです。私は始終此の一分野の顯現を待ち望んで居ます。そして、美術展覽會の開かるゝ毎に、之れを注意深く探すのです。それからまた、私は、自分の専門の立場から、藝術家によつて觀られ、藝術家によつて表顯せられて居る『子供』の中に、大に學ぶべき貴い資料のあることを信じて居ます。そして、あらゆる方面の兒童觀

から學んで、正しい、且成るべく意味深い兒童觀をつくりたいとつとめて居る私は、此の貴重なる學問のために、古畫にあらはれた『子供』を漁ると共に、新らしい美術展覽會へ急ぐのです。——前に吞氣一方のことでないと言つたのは詰り此の意味です。しかし、今日は、そんな纏つた議論を試みやうとするのではありません。たゞ、展覽會見物の斷片的な思ひつきを羅列するに過ぎませんすなはち、畫家にも讀者にも濟まない吞氣千萬な獨り言に過ぎないのです。

文展の第一室の入口のとつつかの『出陣と凱旋』(淨法寺高陽)に先づ第一の子供が出て來ます。併し私の目は少しもそれに引きつけられませんでした。そして、出陣の悲しみの方に『子供』を使つて、凱旋の喜びの方に『子供』が使つてないのを、『子供で泣かす』、例の手だな、などと頭の中に思ひながら私の足はいつの間にか突當りの『祭の日』(松村梅叟)の前に立つて居ました。祭裝束の六人

の女の兒を、一人々々見較べながら、私はいつも子供の前に立つた時の一種のチャーミングを何處にも感じ得ないのを残念に思ひました。私は子供の前に立てば、格別に美しいとか愛くるしいとかいふ方の子供でなくとも、必ず運動の快感——妙な言葉ですが——を感じるのです。ところが此の六人の女の子のどれに對しても、此の心の運動の快感が起りません。私は、繪の子供は何故こんな動かないのだろうと思ひました。生きた子供を、一度動かない人形に揃へて、それを繪にしたものならば兎に角く、生きた子供をそのまゝに繪にして、何故斯う固定してしまふのだろうと思ひました。そして、それを技巧の點だけから考へるのは不充分で、日本の畫家の兒童觀の或る大きな缺點のあらはれとして考へられはしないかなどとも思ひました。

第二室の終りの方の『聚景圖』(荻生天泉)、『水苑』(織田觀潮)、『靜日』(蔦谷龍岬)の三つが、そ

ろつて支那の子供を描いて居るのも面白い偶然の
排べ方でした。私は一體日本人の描いた外國風景
だの殊に外國風俗だの、繪に頭から妙に虫が好か
ないといつた様の感を始終持ちます。此の三つの
支那兒童に對しても同様です。殊に『水苑』の支那
を描いて支那になつて居ない蓮池を背景として、
欄干に後ろ向きにつかまつて居る兒童の後ろ姿
の、まるで猿の後ろつきかなにかの様の心持悪い
のが、私の、いつもの反感を一層いらだゝせまし
た。但し『靜日』の鸚鵡を前にして居る青服の子、
姉が糸をまいて居る傍の赤服の子、これは稍や、
ほんとうの子供らしさをあらはして居ました。

第三室は、美人畫を集めた室です。しかも北野
恒當の『暖か』や、輝方の『木挽町の今昔』、蕉園の
『かへり路』其の他の艶麗な色彩の美人畫が所謂見
物人の目を惹いて居る間に、兎に角く注意すべき
子供畫が六つまでもあるのは心づよいことです。

『雨のあと』(紺谷光俊)は畫題として實によい畫

題です。幼稚園歸りの二人の女兒が、雨あがりの
路を、一人はぬれた傘をさしかけて、一人は傘を
すばめて、肩にして、互に身を寄せて餘念なく話
あつて歸つてゆく處です。何といふよい畫題でせ
う。しかも、畫題が非常によいだけに畫面の之れ
に伴はぬ感のあるのは遺憾なき能はざる處です。

どが悪いといふのでは勿論ありません。體も顔
も、一應よく描かれて居ます。併し、いかにも繪
にかくから二人斯ういふ態をして居て呉れといつ
てモデルに立たせて居る様な處があります。言ひ
換ゆれば、幼稚園歸りの容子を活人畫風に、して
見せて居るといつた處があります。極言すれば繪
に子供の心が充溢して居ないのです。そこへゆく
と、『稽古のひま』(島成園)は、流石に子供の心が
出て居ます。一昨年此の人の『祭のよそほひ』に見
えた子供の心の明るい方面はありませんが、此の
年齢からお師匠さんの處へ来る、此の女の子らし
い或る心はよく出て居ます。たゞ全體が如何にも

まとまりの弱い繪で引立ちませんが、此の子自身は、矢張り此の人の筆に生きて居ます。

『霜月十五日』(河崎蘭香)は子供の繪といふよりは寧ろ子供の着物の繪、それも衣服の繪でなくて衣服の色模様の繪といつた方が、いゝかも知れません。或は多少皮肉過ぎた言ひ方かも知れませんが、子供の美しさを描かうといふよりも、子供を美しく描かうとして居る繪だといひ度いのです。

その爲に、畫家の目的、工夫、技巧の下に、子供そのものがかくされて仕舞つて居る氣味があります。若し夫れ、子供そのものに美を深く深く見出して、之れを、あらはし足らざるを之れ憂ふると言つた風の態度を畫家の忠實といひ謙遜といひ得べくんば、自分の技巧で子供を美化してやらうといふ態度は、畫家の傲慢とも言へないことはありますまい。此の作が即ちそれだといふのではありません。たい斯ういふことを考へさせる或る傾きが此の畫の中にあると思ふのです。そして、此の

作の爲に甚だ遺憾とするのです。それに引きかへ

『おもちゃ屋の店』(菊澤武江)は、弱いながらに子供そのものから惹き起された興味が主となつて居る作です。そこに私共に或る快さを與へます。たい、此の畫家の子供に對して持つ興味の内容が極めて平凡で又頗る強さの足りないものである爲に、折角の繪が、失敬ながら、つまらないものになつて仕舞ひました。即ち此の畫が有して居る『子供』に就ての興味は、所謂兒童生活のあどけない無邪氣、乃至可愛らしさといふ種類のものであります。之れが悪いといふものではありませんが、それだけでは、眞の子供は出て來ないのです。これは寧ろ、『子供』の眞相の淺い處、軽い方の興味です。子供の生活は、もつと深い處で味ふことが出來ます。それは本氣といふことです。即ち、子供——あのたわいない、謂はつまらないことに日を過して居る子供の生活の中に、子供自身として

は、非常な本氣を有して居るのです。今しも玩具屋で一つ一錢の紙風船を買つて来て、それを大事に兩手に持つてふくらして居る此の子供は、實に本氣でなければならぬのです。處が此の畫にはそれが少しも出て居ません。恐らく、此の畫家がそこまで深い興味を子供の生活に見出し得て居ないのであるまいかと思はれます。その點に於て『村のわらべ』(鳥御風)は少からず私の注意を惹きました。此の畫面全體の感じは餘り感心したものではありません。單に數個の人物を一行に配し來つて、少しく散漫過ぎた傾きがあります。しかも其の人物——即ち子供の一人々々について見れば、各個に何ともいへない面白味をもつて居ます。着物を頭から達磨かぶりにして、足どり可笑しく戯れてゆく先頭の男の子も、此の子供に笑ひを催して後からついてゆく女の子も、その女の子の背におんぶされて居る頭の大きい子も、それ／＼に子供らしさの無邪氣と本氣とを具へて居ます。た

い此の二人は、おどけて居るに拘はらず、歩いて居るに拘はらず、どうも未だ動きが足りません。そこに又例の物足りなさがあります。ところが、其後ろからついてゆく男の子に至つて、實に子供の無邪氣と本氣と動きとが跳動して居ます。絲のさきに蜻蛉をく／＼つて、その絲を手につるして、うつむいてそれを見ながら歩いて居る容子、顔は見えませんが、絲のさきにぶらさがつて動いて居る蜻蛉と共に、此の子の全心が活き、その動きに惹かれて觀る者の心が動いて來るのです。うまい處を捉へたといへばそれまでですが、そのうまい處が實によく描かれて居ます。私は何時まで見て居ても、此の繪なら厭さる時はないと思ひました。子供の繪として近年の傑作といつてよいと思ふのです。

『お鶴』(栗原玉葉)は、直接の子供畫でなくて、舞臺化を経た間接の子供畫です。一般子供畫として論ずることは出来ないかも知れませんが、兎に

角く、此の薄命な可憐な女の子が、どう描かれて居るかは、私の注意をひきました。先づ氣のつくのは此の畫家の特色のさびしさです。之れは此の畫題によくあつて居るといへませう。しかし、そのさびしさなるものが、もう一つ深みを持つことは出来ませうまいか。去年の『さすらひ』などより、繪柄の幅はづくと大きくなつて居ますが、女らしい弱いさびしさ以上に深みのないことは、『さすらひ』と同じことです。といふのは此のお鶴なる少女を、私達は義太夫で聴き、芝居で見て、一通りの同情は終終なし得て居るのです。殆んど反射的な同情の涙を誘はれつけて居るのです。若し畫家が此の少女を描いて、何等それ以上の深みのある同情を畫面に漂はせぬとしたら、私達は、私達の心の中にある月並な『お鶴』を、目の前に見るだけで、敢て特別な感興も敬嘆も起らないのです。

直截的にいへば、私は此の敏感な——殊に物のあはれに敏感な閨秀畫家から、『お鶴』に對して私達

が平素持つて居ない程の深い、こまかい同情を學びたかつたのです。しかも、畫家は、私が平生感じて居るありふれた『お鶴』以上に何等のものも與へて呉れませんでした。

之れから以下第十六室までの多數の日本畫の中に、子供の繪として、とりたてゝいふ程のものは一つもありません。子供が描かれて居ないではありませんが、それはくつまらないもの許りです。『拾君』(猪飼嘯谷)は繪として手法に一寸變つた處のあるものらしいですが、何を興味にこんな畫材が撰ばれたかを怪しむのです。淀君に若君が生れた喜びに、之れを拾君と名づけて豊太閤が寵愛措かず、玩具の舟に乗せて室内を侍女達にひかせたとかいふ故事を、京都の妙信寺に寶物としてあるといふ其玩具舟によつて描いたものと説明が附してあります。その拾君さまなるものが、實に可笑しなものになつて仕舞つて居るのです。之れと同一系に屬する子供が『得意』(植中直齋)に出て居ま

す。蟲干しの甲冑を着てえばつて居るといふ月並な趣向のもとに、だらけて仕舞つて居る子供が描かれて居るのです。

『夕茜(渡邊公観)』と『豊樂(玉含春輝)』とは、支那畫の子供の悪い方だけをお手本にした繪です。

例の唐子カラコの外に子供畫のない古い型を、そのまゝ傳へて失敗して居る極ていゝ例です。『秋近し』(田畑秋濤)は一種の面白い墨色に秋近しらしい氣分が出て、下にほうづきを持つ二人の女の子に、此の年齢のあるものが出て居ないではありませんがそれだけの平たい繪です。

西洋畫に移つて、今斯う筆を執りながらも第一目に浮んで來るのは『葡萄棚』(南薰造)です。一昨年の『搖籃』以來、此の畫家を私の最も尊敬する子供畫家として獨りできめ込んで居る私は此作の前に豫めの期待感を以て立つたのですが、果して私は失望しませんでした。元來、子供畫に缺くことの出來ない要素の一つはシンブリシチーとい

ふことです。彼のシンブリシチーを生命とせるミレーに貴重な子供畫の澤山あるのは即ち之れが爲です。シンブリシチーは、子供が眞に子供らしくある爲の要素で、そして子供畫家はそこをよく捉へられ、そこをよくあらはし得る人でなくてはならないのです。此の作家は自ら子供畫家を以て任じて居る人ではないかも知れませんが、しかし一昨年の『春さき』を、あの尊敬すべきシンブリシチーを以て描いた此の畫家は、私が一昨年も言つた通り『子供を描くに類の少ない適當の人と言つてよい』のです。葡萄棚の下に蘆を敷いて、おつかさんに髪を結つてもらつて居る此の少女のシンブリシチーを御覽なさい。否寧ろ此の畫面一ぱいに出て居るシンブリシチーを御覽なさい。葡萄の葉の描き方が、いつもの此の畫家の描き方と違つた新しい行き方のあるのが、面白い様な、惜しい様な、従つてそこに多少シンブリシチーを害される危険がありますが、それを蔽ふて尙ほ餘りある

雜 錄

程の大きいシンブリシチーが一體の穩かな光線に、母親に、少女に充分に出て居ます。殊に私に貴いと思つたのは丁度此の年齢の少女の心理的特色が、とても分解的、説明的記載では明かにしつくせない一種の微妙の特色が、よくもよくも描き出されて居ることです。

私は之れ一つで充分に満足して、他の子供畫を茲に詳説する心になれません。但し他にも相應に注意したのもありました。『撫子』(白瀧幾之助)『父の部屋』(永地秀太)などは即ちそれです。中には『父の部屋』は、洋装の少女が父の書齋の椅子にかけてすまし込んで居る處でゲインスポローなどの子供畫にでもありそうな、ある調子を持つた立派な作でした。

○全國幼稚園關係者大會記錄

本年八月開催せられたる全國幼稚園關係者大會の記錄は本誌に掲載する様にも發表せられて居りましたが、今回文部省に於て特に該記錄を印刷し一冊子として今回幼稚園其他に配付せらるゝことになりました。之れ實に大會の光榮とする處でありまして、又文部省が斯くまで幼稚園教育のことに意を拂はるゝことは新教育の爲に大に幸とする處であります。該記錄の原稿は本會に於て取まとめ既に文部省に差出してありますから、遠からず配付せらるゝ事と思ひます。此の段茲に本會より豫め申上げて置きます。

○フレーベル會總會

フレーベル會總會は、去月十六日午後一時半より東京女子高等師範學校附屬幼稚園に於て開かれました、中川會長の挨拶、庶務會計の報告、深作文學士の『戦争と婦人』と題せる講演及び會員談話として手工特技に關し板沼しつ、安井哲子兩氏の談話がありました。後茶葉の間に思ひくゝの懇談を交へ散會したのは既に夕刻でありました。

○本會事務所移轉

本會事務所は東京女子高等師範學校附屬幼稚園内に移轉致しました。爾後本會に關する御用向はこの方へ願ひます。

ビエウロウ
夫人の
フレーベル追懷錄

S
K
生
譯

十一 アルテンスタインに於ける子供の祭禮

フレーベルが最大なるものと最小なるものとの結合を固執し、之を教育に於て考察したいと望むに於ては、この理論は子供の遊戯に於てその適用を見出します、子供の遊戯はその普遍性に於て人間性を照寫し、又その無意識の状態に於て人間の教養の萌芽を示します。それ故、自己表現を爲さんと藻掻いて居る盲目の衝動に、目的に達する正しき道を指示するために成人者の悟性が幼き子供の暗中暗索を助けること及び最も適切な形式に於て後の意識生活に至る針路を示してやるために子供の言葉に現される符號的性質の正しき意味を取り出すといふことは非常に重要なことであります

發達せざる心は眞理の理解に達するためには感

覺的の認識と可見的の記號とを要します、野蠻人が偶像的物體フィギュルンを要するやうに、野蠻人よりは文化の進んだ古代の人々が彼等の理想を神々や又種々の比喩に具象化したやうに、それから又基督教の教會が象徴無しでは即ち十字架や聖麵包を抜きにしてはその意義を理解させることが出来ないやうに、子供時代の最深な要求は象徴若しくは感覺的形體によつて智力をその所有とすることであります。

それ故、まづ第一に象徴的表現がこのもの——子供が各自一人の役者として演ずる所の表現即ちそれに於て一團の子供がその基礎に横つて居る理想の代表者であつて、その理想の意義を彼等がそ

の行爲に現す所の遊戯——に必要であります。

フレーベルの運動遊戯キネマティックはこの目的を持つて居ります、何故ならばそれは或る意味に於て演劇であつて子供の理想を自然的及び人間的の行爲によつて客觀的にするからであります、子供の心靈はそれを取巻く生の現象の意義を無意識に探し求めて居ります、けれどもそれを本當に發見することが出来るためには指圖を必要とします、而してこの理解は單に言語のみに依つたのでは得られません、が言語に結び附いた行爲によつて、それから何はともあれ彼等自身の行爲によつてのみ得らるゝのであります。

希臘に於てオリズムピア等の競技の形式に於て屢々行はれた宗教的演技は當時の人々のこの要求を充たしました、それによつて人々は宗教的觀念を懐くやうになつたのであります、當時行はれた世界觀は主としてこの競技の形式に於て劇的行爲によつて會得されて居たのであります、希臘の黄金

時代に於ては他の民族に現されたことのない靈肉兩界の調和が現されて居ります、而してそれ故にこの調和は人類界に於て青年の理想的時期の正しき代表であります。美の形成はすべての感覺を鍛錬しすべての感覺を活潑ならしめてゐた當時の人の深い要求でありました、それ故それは何物にもまして感覺の世界に今尙生きて居る青年の要求を示します、生の智的若しくは高踏的な内容、善美の觀念は若しもそれらが理解せられて猶低き感覺的の快樂の卑俗を驅逐せんとするならば、象徴せられなければなりません。

若しも眞理が子供の心にとゞ抽象的の言語の形式に於てのみ供せられ、蔽はれたまゝで與へらるるならば信仰力若しくは眞理の意識は子供の心に於て絶滅さるゝに至るであります。歴史の諸相がこのことを教へます、それなのに人々は依然このことを繰返し、宗教や哲學を殊更教權として提示します。フレーベルはこれとは反對に宗教的行

爲と具體物の哲學的認識に依つて獨創的の確信と獨創的の洞察力とを覺醒し、それによつて宗教的の教權と哲學的の教訓とに對する準備を行はうと望むのであります、ルソーはこの方針と同じ意味のことを「あまりに早くより言語によつて與へらるゝあらゆる眞理は子供の心靈に惡徳の種子を植ゑる」といふ言葉で現して居ります。

幼稚園の象徴的の遊戯は少年をして希臘の象徴的の遊戯を繰返さしむるやうに鍛鍊するでありませう、けれどもそれらは決して希臘時代の見解ではなく現代の見解を照寫し、それによつて近き未來に對して用意をいたします、斯くて新しく作られた子供の祭禮から新しい意味を持つた一般人の祭禮が成長して來るであります。

幼稚園の遊戯に續く遊戯は或る形式に於て生の支配を教へ、智識的並びに物質的に教練を助けるといふやうな實際的の歸結を待つて居なければなりません、組織せられた運動場、學校園、教室、

諸種の藝術的敎習、田舎への遠足は文學的の學校と聯關してこれに對する方法を提供します、是等の機會の多くは既に存在して居るものであります、單一であつてはどれも役に立ちません、これらを一つの全體に結合するには組織的觀念が存在しなければなりません。

計畫せられた遊戯祭はミツテンドルフが居なくては完全なものとなりません、乃で彼はこれに仲間入をさせられました、彼は八月二十日の日暮方マリエンタルに到着しました、最後の部分を徒歩で來た彼は旅に疲れて、上氣して、埃塗れになつて居りましたが喜悅を滿面に堪えていそ／＼とラレーベルの家へ入つて行きました、私は彼と共にお祭のために何か用意をして居りました、フレールはその時既に彼の出來るかぎりのことはすべて仕遂げてしまひました、近隣諸地方の先生と打合せもすませてしまひました、アルテンスタインの城を取圍む廣場を遊戯場として選定してしまひ

した、競技の計畫も立て、しまひました、而して多くの唱歌や遊戯を彼の學校の研究生やリーベンスタイン幼稚園の子供達と共に練習してしまひました。

その晩ミツテンドルフと協議して、その翌日二人の友達がお祭に就ての細かいことを相談して速座に決定してしまふことになりました、彼等は諸方の村の先生達とその生徒の團隊に指定の時間に指定の場所へ来るやうに迎ひを出すことにしました。私は當時アルテンスタインの城においでになつた公爵家の方々をお祭へ——公爵家では既にお祭を舉行することを親切に御許可下さいました——お招きするために使者に立つことになりました、招待を心よくお受け下さいましたばかりでなく公爵夫人は子供達に牛乳と卷麩麩を御寄贈になることをお約しになりました。

八月四日と取極められたお祭の前日にはフレトベルもミツテンドルフも一分間も坐つて居る間な

ぞありませんでした、二人とも準備に夢中になつて居りました。クリスマスの前日の母親達の喜びに似た二人の心の喜びはその顔に明かに認められました。子供を幸福にすることはすべての人々の心を祝福します。

フレトベルは日和見のやうに凝然と瞳を凝らし、明日の天氣都合如何にと夜空を注視して居りました、すべての兆候は上天氣を豫想させました而してこの豫想は適中しました、暑すぎない煦々たる夏の太陽が青空に懸つて此國に於ける最初の子供の祭即ち愛に充ちた美しい祭の上を照らして居りました。

八月四日の午後二時に四人宛に並んで五つの異つた縦列を爲した三百有餘の子供が小さいサルツングの町、四周の村々リーベンスタイン、マリエンタル、シユワイナ及びシユワインバッハから繰込んで來ました、花環の飾りをつけた先生や保母が列の側に付き添ひ、歌をうたひながら大廣場即

も當日の遊戯場と定められたアルデンスタインの高地へと繰込んで來ました、入口には樅の葉の環の上に大きな花冠が据ゑられ、その花冠の中央にシルレルの、

「子供の遊戯中に屢々深き意義の横るあり」といふ句が記されてありました。

リボンの結節の色の相違によつて區別せられた各地からの子供の團隊と先生とはアルデンスタインの下なるシュワイナの村の夫々指定された場所に集合しました、サルツングの遠い方から出て來た組は此所から皆揃つて遊戯場へ上つて行くために緑の花綵を以て飾られた乗物に乗つて來ました而して一同はフレーベルとミツテンドルスとに迎へられました。

是等の諸地方から集つて來た縦列、大人や老人をも含む年齢の相違、子供の屬する階級及び教育程度の相違、(ラーベンスタインの子供は殊に著しく際立つてゐました)、すべて是等の多種多様なる

相違はフレーベルに取つて特別な意義を有するものでありました。

それは彼の「生の渾一」の思想を現すために必要でありました、遊戯とその喜びは種々に異つた生活、種々に異つた土地に住む人々及び種々に異つた職業や教育程度を等しく高めて、丁度一般的の崇拜がすべての個人を宗教的歸依に於て結合するやうに遊戯に於ける高尚な享樂を通じて結合しなければなりません。

間もなく子供達を廣場の中心を取巻いて八つの異つたサークルに區分するやうに命が下りました一つ一つのサークルはそのサークルの先生若しくはフレーベルの學校の保姆の一人によつて引率されました。

見物人は廣場の外なる四周の森蔭に整列させられました、附近の村々の人々がいろいろな百姓姿をして美しく入交つて居ました、彼等の多くは子供達の兩親、兄弟、姉妹、サルツングの町の住民

及びリーベンスタインの浴客でありました。多くの顔には、最も高い感情——父の愛——が刺戟された時最も粗野な人の顔にも見らるゝ所の愛が輝いて居りました、而してこの愛は孫を連れた白髪の老農夫の眼に於て殊に輝いたのであります、祖父母の愛といふものは田舎の人々に於て特に旺んであるやうに見えます、恐らく彼等の狭い生活と老年のために劇しい仕事から退いて居るといふことが彼等を導いて家族の子供の上に——老人は容易く子供を理解します——彼等のすべての感情を集中せしむるのでありませう。

三百人の子供の朗かな聲が

「こゝに結べる我等を見よや」

といふ開會の歌を響かせた時、それは異つたサークルが種々の展開をなす一種の進行遊戯によつて伴はれました。その時すべての人々の眼は喜びを以て輝きました、而して誰もその眼を遊戯者の上から轉じませんでした、遊戯者は單純な子供のや

うに紛れも無き喜びと快活とを以て、まこと熱心と専心とを以て、その遊戯の仲間入りをしてゐたのであります。

子供等に取つてはその遊戯は生命であり、活動であり、仕事であり、而して又同時に快樂であります、彼等はそれ故少くとも遊戯の恍惚が彼等の魂を飛ばし、その活潑な性質を度がすぎる位に刺戟するまでは非常な熱心を以て遊戯に携るのであります、この過度は成人の遊戯者の大集會には滅多に現れません、而して最も氣儘な子供の喜びさへも適宜の感情によつて暗示を受け或る限界の内にとそれ自身を抑止します。

この時にもさうでありました、すべての人々は遊戯の指揮者の聲に従ひました、指揮者は又フーベルとミツテンドルフとの合圖に従つたのであります。

開會の歌に次ぐ遊戯は皆歌の言葉によるよりは行爲そのものによつて子供達に了解されました、

優勢な思想が常に個人の行爲とすべての人々の屬する（渾一をなした）サークル全體の行爲との代り目でありました。間もなく團隊の一つが丁度或る一人の指圖によつて或る團隊に系統的の運動を爲さしめるやうに、内部の輪の中に於て何事かを爲すべく選まれます、これをすべて團隊が眞似るのであります。さもなければ或る團隊がその他の團隊の爲すべきことを決定し指示します。

例へば異つたサークルは夫々花環を作りました。それらの各は異つた花を現し、異つた徳の標象として歌を謳つて讚へました、閉會の時彼等はすべて獨逸民族の象徴として夫等を一體に結ぶところの獨逸の槲葉環を表す一つのサークルに結合しました。

鳩の家といふ競技に於ては鳩が遠方に飛び去つて又歸つて來ることが演ぜられました、而して飛び去つた鳩は歸つて來てから見たこと聞いたことを他の者に話さなければなりません。

唱 歌

我等は再び鳩の家を開き

すべての幸福なる鳥を放つ、

彼等は野を渡り草深き平地の上を舞ふ、

樂しき自由を悦びつゝ、

斯くて彼等樂しく大空舞ひて歸り來れば、

我等はその家を閉しやりわかれの言を告ぐ。

さても汝はこゝにかへりて安けけたのし、

愛らしの小鳩よ、汝の見來りし所を語れ。

鳩は物語り、而して言へらく「ポポ

我はたのし、母よ、みもとに歸り來ぬれば。」

この時子供達は手に持つて居る緑の小枝を以て

垣を作ります、小さい鳥になつて居る幼い子供達

は「森の小鳥」を歌ひながらこの垣の下をくゞり

ぬけます。

子供の思想を自然や動物の生活に導いて行く同

じやうな遊戯が幼稚園には甚だ數多くあります、

一般に言つて他の子供達よりは身體の大きいサ

ルツングの子供達は體操と一緒に幼稚園に適するやうに變へられた同地の有名な子供遊びを練習しました、一般に特に幼稚園の遊戯と言はるゝものは非常に面白く又子供によく適するやうに出來て居ります。

諸種の遊戯の基礎に横つて居る意義若しくは主眼は持て囃される話に於て面白をかしく現れ出てくるものでありますがこれは幼い子供には分りません、又は少くとも不適當であります。現今の教育状態は是等の遊戯が時代に適するやうに改作されることを望んで居ります、子供の心靈に於て確乎たる思想を覺醒すべき遊戯に對するフレーベルの考へ方は常に幸福に選まれるとは限りませんが、けれどもそれは大概瞬間的の子供らしい衝動から若しくはすべての競技の源泉である所の人々の機智から湧き出づるものゝまはりにはそれ自身を結晶せしめて子供の感覺に於て正しい心的傾向を見出します。

フレイベルは子供の天性の感覺的部分を解釋し表現することに於て假令それを現す所の詩句が缺點の多いものであつたにせよ、又よく省察してみても此所彼所非難に價するところがあつたにせよ、眞の天稟を以て成功して居るのであります。

それから一般に持て囃さるゝ樂なる唱歌の音樂は常に最善であつたとは限りません。フレイベルは手にあつたものを取り上げたのであります、何故ならば彼は音樂家でも詩人でもなかつたからであります、彼はたゞ彼の理智的思想を現すことを主眼としてゐたに過ぎません、是等の缺點はすべての仕事に避け難いその他の不完全と共に容易く改良されるものであります。

けれども人々はフレイベルの教育體系の深い根據をホンの淺くしか見ないために、批評がフレイベルの教育體系を主題として存在する時は是等の外面的の事物即ち貧弱なる詩や唱歌や詩化された考察等のみに就て語られ、子供のために計畫され

たこと、例へば「母と愛子の歌」の主張の如き母親に當て、言はれて居るものが混同されて了ぶのであります。

しかしながら斯る皮相の馬鹿らしい判断は自己の目的のために教育を行はんとする所謂主張者なる者に、その憐むべき不細工な仕事に於て（彼等はフレイベルを批判し非難しながらフレイベルの思想を彼等の仕事に於て彼等のもの、如く併り用ゐて居ります）公平の判断に似た外見を彼等に與へるためにそれらを利用する機會を、與へることによつて損害を爲すのであります。

是等の皮相の判断は子供の天性に入つて行くことは出来ません、彼等の文學的價値の標準は子供の天性に適應しないのであります、母の膝に抱かれて片語を言つて居る幼児や五歳位の小さい子供はゲーテやシルレルを理解しません、けれども庭の動物を見て自分達の言葉でフレイベルの小唄を歌ふことが許される時小さい子供は確かに理解する

ことが出来ます。

小さい鳩は空を舞ひ、小さい仔馬は飛びまはる、

小さい鵝がもはギヤーと鳴き、鶯うぐいすはガーと鳴きます、

小さい蜂はブンと鳴き、モーモー牛はモーと鳴く、

小さい犢は跳ね廻り、孔雀は氣取つて歩きます、

小さい羊はバーと鳴き、爺さん羊はオーと鳴く。

これらには全く美しい思想もなければ美しい詩句もありません、けれども幼い子供に分るやうな適當な言葉があります、私達は動物の種々な運動や鳴聲を幼い子供が喜ぶやうな又リズムの感覺を喚び覺ますやうな拍子に合せた言葉で現して、この年頃の子供の注意を斯る方面へ向けさせたいと思ひます。



の一本日 年幼本白

報畫の供子き白面くし美

文學士 倉橋惣三先生 監修
繪畫は 六畫伯の執筆

◎可愛いお子様を

美しく善く育てたいと思はれるお母様方の爲めに深い注意と多くの苦心を重ねて理想的に編輯せられ今度新たに生れたのはこの日本幼年です

◎可愛いお子様に

お與へになつて玩具やお菓子よりも喜ばれ面白がつて樂しむ間に感情を高尙にし美しき習慣を養ひ清き心の糧となるのはこの日本幼年です

◎可愛いお子様が

幼稚園から尋常小學でお習ひになつたことを喜び笑ひ興する間に知らず識らず復習し補習するのはこの日本幼年です

◎最後に お母様に

御注意を願ふのは日本幼年は文學士倉橋惣三先生の監修で六畫伯の彩筆になり紙數も多く印刷も鮮明で従來有りふれたものに全然超越して居ることです

◎定價 一冊 十錢
前金 半年前金 六十三錢
少年前金 一圓廿三錢

婦人畫報
少女畫報
日本幼年

發行所

東京 東 京 社

東京市京橋區鍛冶橋外 振替東京二二八番

日 曜 學 校

每月一回 十五日發行
 一部(稅共)拾錢 一年分同一圓

本誌は大正三年九月の創刊にして、我國唯一の基督教日曜學校機關雜誌なり。每號の内容充實して記事豊富、試みに既刊十二號の要目を掲ぐ。

宗教々育の急務(二號)

兒童觀の發達(十一、二號)

行動中心主義の教育(二號)

子供の見方(六號)

日曜學校教授法(四號以下)

兒童の聲音に就て(六、八、十號)

『我が子の生立の記(八號以下)』
 『馬上市著』『少女の教育』紹介話の研究(八九)

日曜學校教師の理想(四號)

子供の日(就て(九號))

新約聖書總論(十二號ヨリ)

日曜學校各科綱要(嬰兒科、幼稚科、初等科、中等科)

記憶の話(十、十一號)

平民文學たるべき聖書(一號)

日曜學校教師の觀たる小學修身書
 ○教育に於ける基督教の權威
 ○全世界に於ける日曜學校事業の最近統計
 ○明年秋東京に開かるべき第八回世界日曜學校大會記事
 ○伊佛英日の日曜學校
 ○毎日曜の子供説教
 ○諸家の葉書便り
 ○海外疑問
 ○抄録摘載
 ○英文等

何時にても取揃へ御注文に應ず

東京市京橋區銀座四ノ一教文館内
 振替口座東京一八〇〇四番

日本日曜學校協會本部

- | | |
|------|----------|
| 協會長 | 小崎弘道 |
| 教授 | 横川四十八 |
| 文學士 | 和田琳熊 |
| 文學士 | 倉橋惣三 |
| 牧師 | 海老澤亮 |
| 音樂部長 | 青木兒 |
| 在米 | 岩村清四郎 |
| | エチ・イ・バルト |
| 教育部長 | 三戸吉太郎 |
| 牧師 | 三浦泰一郎 |
| 教授 | 吉崎彦一 |
| 文學士 | 柳原貞次 |
| 文學部長 | 赤星仙太郎 |

フレイベル會規則 (抄)

第一條 本會ハ幼兒保育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハフレイベル會ト稱シ東京ニ置ク

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒保

育ニ篤志ナルモノトス

第四條 會員ハ本會ノ經費トシテ一ヶ月金拾錢ヲ齎出スベシ

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルモノ

ハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルベシ

第六條 本會ノ目的ヲ達センガ爲ニ左ノ事業ヲ行フ

一、總會、毎年十月之ヲ開キ保育ニ關スル演說、談話、保育參考品
幼兒成績物展覽、會務ノ報告等ヲナス

一、常會、毎年二月、六月、ノ第二土曜日之ヲ開キ保育ニ關スル演
說、談話、協議、實驗等ヲナス

尙毎年四月廿一日特ニフレイベル紀念ノ爲メ會ヲ開ク

一、組合會、會員中特ニ或ル事項ヲ研究セントスルモノヲ以テ組
織ス

但シ別ニ組合規約ヲ定メテ會長ノ承諾ヲ經ルモノトス

一、雜誌發行、毎月一回雜誌ヲ刊行シテ之ヲ會員ニ配布ス

一、前項ノ外本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

本會々々長

中川謙二郎

本會幹事

(イロハ順)

井村 くに 池田 トヨ 坂内 ミツ
大瀧 晴 和田 實 和田 くら
倉橋 惣三 安井 哲 福田 ふく
小向 きみ 雨森 劍 坂井 ふで

本會評議員 (イロハ順)

乙竹 岩造氏 吉田 熊次氏 田中 ふさ氏
野口 剛香氏 横山 榮次氏 藤井 利察氏
下田 次郎氏 日田 權一氏

本會客員 (イロハ順)

伊澤 脩二氏 巖谷 季雄氏 岩谷 英太郎氏
波多野 貞之助氏 細川 潤次郎氏 本間 辰藏氏
戸野 周次郎氏 大瀬 甚太郎氏 奥 好 義氏
尾田 信忠氏 大久保 介壽氏 嘉納 治五郎氏
唐澤 光德氏 谷 本 富氏 高島 平三郎氏
棚橋 源太郎氏 多田房之輔氏 田中 敬一氏
中島 力造氏 中村 五六氏 野尻 精一氏
野上 俊夫氏 久留島 武彦氏 松本 亦太郎氏
松本 孝次郎氏 馬上 孝太郎氏 富士川 游氏
小西 信八氏 淺岡 一氏 富部 顯宜氏
櫻井 光華氏 三島 通長氏 篠田 利英氏
東 基 吉氏 瀬川 昌耆氏 尺 秀三郎氏
菅原 敬造氏

幼稚園保育用品

- 一、恩物
- 二、手藝品
- 三、新案手藝品
- 四、モンテッソリー教具
- 五、運動用具
- 六、遊戯用具
- 七、標本模型
- 八、設備用品
- 九、裝飾用品
- 十、おみやげ用品
- 十一、書籍繪畫類
- 十二、諸表簿證書類
- 十三、普通玩具類
- 十四、其ノ他一般ノ用具材料

● **幼稚園用品は家庭玩具**

としても**亦普通玩具に冠絶す**

東京麹町區三番町

フレール館

(電 話 番 町 二 九 〇 九)
(振 替 東 京 一 九 六 四 〇)

フレール館の
新製 品

春 駒

一、製造の由來——此の春駒は東洋幼稚園長岸邊先生の御創案にして御使用後増々其の効果の偉大なるに驚かれつゝある運動具なり。

一、使用遊戯——騎兵の操練、騎兵の戦闘、競馬等に用ひて兒童勇躍の狀を想見せられよ。

一、出 來 方——馬首の形に板を挽き之に象箠を以て表象し丈夫なる棒を附して末端に二個の車を附し且つ首の付け根に四尺の紐を以て首に掛くる様にす之れ戦闘の際軍刀を持つ時手を馬より離し得る爲めなり。

定價五十錢 送料實費ヲ要ス